

令和元年度 陽南小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

日本国憲法及び教育基本法の内容、栃木県及び宇都宮市の教育目標、そして児童の実態や社会・地域の要請を受け、人間尊重の教育を基盤とした本校の教育目標を次のように設定する。

（１）基本目標

心身ともに健康で創造性に富み、心豊かで実践力のある児童を育成する。 【自分に自信をもてる子を育てます】

（２）具体目標（具体的な児童生徒像など）

- ・自ら学び、ねばり強く努力する児童（楽しく学ぶ子）
- ・思いやりをもち、助け合う児童（仲よく助け合う子）
- ・健康と安全に留意し、元気に活動する児童（元気に活動する子）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

創立70年の陽南小学校のよき伝統と校風を引き継ぎ、すべての教職員の力を結集するとともに学校内外の物的・人的資源を最大限に生かし、児童一人一人の確かな成長を図る学校づくりを進める。その理念と目指す学校像を次のように設定し、教育活動の充実につなげる。

理念

- ・安心と楽しさのある学校づくり
- ・ともに伸びる学校づくり
- ・家庭や地域から愛される学校づくり



学校像

- ・確かな学力を育む学校
- ・豊かな心を育む学校
- ・健康な身体を育み安全な学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

全職員が信頼と和を基盤とした協働体制のもと、教育目標や学校のあるべき姿の具現化を目指し、次の7つの方針をもとに学校経営にあたる。

- （１）すべての児童の人権を大切に、児童が教育活動の中で自分のよさや個性を発揮し自己肯定感や自己有用感を感じることが出来る学校づくりに努める。
- （２）○小中一貫としての義務教育9年間を通じた系統的な指導を通して、確かな学力の向上を目指し、基礎・基本の確実な定着と「楽しく・わかる・できる授業」づくりに努める。
- （３）自他の生命を尊重し、児童一人一人が生き生きと安心して学校生活を送る中で、児童が自ら健康や体力等の増進に取り組む学校づくりに努める。
- （４）学校課題研修や教師の自己研鑽に基づいた校内研修を充実させ、教職員個々の指導力及び資質の向上を図るとともに、一人一人の能力や特性を生かしながら、児童とともに伸びる学校づくりに努める。
- （５）○「地域の学校」として学校・家庭・地域社会が互いに連携し、信頼関係を深めながら地域の教育力を高めるとともに、陽南地域学校園および小中一貫教育の積極的な取組により学校力の向上を図る。
- （６）学校・家庭・地域社会が一体となり教育活動の充実を図るとともに、積極的に情報を発信する開かれた学校づくりに努める。
- （７）働き方改革を意識した教職員の労働時間の把握と勤務内容の適正化・効率化を進める。

[陽南地域学校園教育ビジョン]

地域に根ざした豊かな心を育む小中一貫教育 ～子どもの自主的な活動を通して～

4 教育課程編成の方針

- ・学校教育目標の具現化を図るため、本校の実情、児童の心身の発達段階や特性、地域社会の要望、保護者の願い、更には小中一貫教育の実施を受けて、知・徳・体の調和のとれた、人間力を育む教育の推進を図ることが出来るよう編成する。
- ・「生きる力」を育成するために創意と工夫を加え、各教科・道徳・総合的な学習の時間および特別活動等の各領域との関連を図り、調和と統一の取れた教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

- ・学校経営のビジョンを教職員で共通理解し、協働して取り組む体制づくりを進める。
- ・学校と家庭・地域の双方向的な関係を築き、学校内外の教育的資源の有効活用を図る。
- ・陽南地域学校園および小中一貫教育の積極的な取組により学校力の向上を図る。

【学 習 指 導】

- ・UDL(Universal Design for Learning)の視点を取り入れ、一人一人が「楽しい・わかる・できる」授業を行うことで、主体的に考え、学び合うことのできる児童の育成を図る。
- ・一人一人の児童が安心感をもって自己表現ができ、互いのよさを認め合える集団をつくることにより、自分のよさを発揮して生き生きと学び合うことのできる児童の育成を図る。
- ・家庭や地域との連携を図り、一体となって児童の学力向上に努める。

【児童生徒指導】 ・「陽南生活のきまり」の振り返りやあいさつ運動を通して基本的生活習慣の育成を図る。 ・Ｑ－Ｕを生かした学級経営を行い、いじめの早期発見・早期解決など全校体制でいじめ対策に重点的に取り組み、望ましい集団作りに努める。 【健康（体力・保健・食・安全）】 ・バランスの良い食事と健康について理解させ、食事のマナーや栄養素などについての意識を高め、望ましい食習慣の育成を図る。 ・生涯にわたり健康なからだづくりができるように、体育主任、栄養教諭、養護教諭が連携して継続的な指導を行い、健康・体力の向上を図る。 ・学年だより・食育だより等で学校での取組や成果を知らせ家庭との連携強化を図る。また、学校薬剤師・警察スクールサポーター・消防署等の関係機関や地域と協力して出前授業や研修等を行うなど連携を図る。

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価							
目指す児童の姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児 童 8 0 %以上 ⇒教職員 8 0 %以上	① 「だれもが楽しく、分かる授業」の展開に努め、「できる」喜びを味わわせることで、学ぶ意欲を喚起し、自ら学習に向かっていける児童の育成を図る。 ② ペア、トリオ、グループなど学び合いの場を意図的に設定し、コミュニケーション能力の育成を図るとともに、聞き手を意識した話し方ができるよう指導していく。 ③ 授業や活動後に振り返りの時間を設け、自分の頑張りや友達のよさを伝え合うことで、自己肯定感を高めたり友達のよさに気付いたりすることができるようにする。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>92.2%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>84.8%</td></tr></table> ・児童・教職員共に、指標を上回っているが、教職員の肯定的回答率は、市の平均より、11.2ポイント下回っている。 【次年度の方針】 ・①②③の取組を引き続き継続すると共に、教職員自身が、児童が興味をもって学習に取り組めるような工夫をしていく。 ・かがやきルーム担当と連携しながら、個別支援を充実させ、一人一人の意欲を高める工夫をしていく。	児童の肯定的回答率	92.2%	教職員の肯定的回答率	84.8%			
	児童の肯定的回答率	92.2%									
	教職員の肯定的回答率	84.8%									
A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 における肯定的回答 ⇒児 童 8 0 %以上 ⇒教職員 8 0 %以上 ⇒保護者 8 0 %以上	① 道徳科の授業と、全教育活動との関連を図り、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心など豊かな心情を育む。 ② 児童会活動や清掃等における異年齢交流活動を通して、相手の立場を考えて思いやる心を育む。 ・ボランティア感謝の会 ・ふれあい給食 ③ 全クラス「きらりコーナー」、帰りの会での「今日のきらり」を設け、友達のよさを認め合えるようにする。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>92.0%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>81.8%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>82.5%</td></tr></table> ・児童、教職員、保護者の肯定的回答率は、すべて指標を上回っている。全クラスで行っている「きらりコーナー」で友達の良さを認め合っていることが、全教育活動に生かされている。 【次年度の方針】 ・①②③の取組を引き続き継続するとともに、学年だよりや学校だよりを通して、学校での取組を保護者に向けて発信していく。 ・今年度減少していた異年齢交流活動を増やすことで、相手の立場を考え思いやる心を育む。	児童の肯定的回答率	92.0%	教職員の肯定的回答率	81.8%	保護者の肯定的回答率	82.5%		
児童の肯定的回答率	92.0%										
教職員の肯定的回答率	81.8%										
保護者の肯定的回答率	82.5%										
A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、きまりやマナーを守って生活している。」 における肯定的回答 ⇒児 童 8 0 %以上 ⇒教職員 8 0 %以上 ⇒保護者 8 0 %以上 ⇒地域住民 8 0 %以上	① 学校のきまり「陽南のよい子」に従って、全教職員の共通理解のもと常時指導を継続し児童にきまりやマナーが身に付くようにする。 ② 「陽南授業・生活のきまり」をもとに、児童に自分の生活を振り返らせ、規範意識を高めるとともに、判断力・実践力の育成を図る。(振り返りは学年に応じて、年3回実施)	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>82.3%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>66.7%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>81.8%</td></tr><tr><td>地域住民の肯定的回答率</td><td>100.0%</td></tr></table> ・児童、保護者、地域住民の肯定的回答率は指標を上回ったが、教職員については、下回っている。教職員の規範意識への共通理解を図り校内で統一した指導観をもつ必要がある。	児童の肯定的回答率	82.3%	教職員の肯定的回答率	66.7%	保護者の肯定的回答率	81.8%	地域住民の肯定的回答率	100.0%
児童の肯定的回答率	82.3%										
教職員の肯定的回答率	66.7%										
保護者の肯定的回答率	81.8%										
地域住民の肯定的回答率	100.0%										

		③ 生活目標を朝の会等で唱和させて意識化を図るとともに、あいさつ、姿勢、言葉遣い、返事などの目標を焦点化し、スモールステップによる定着化を図る。	【次年度の方針】 ・年度当初に教職員の指導観の統一を図り、今後も「陽南授業・生活のきまり」の実施と振り返りをもとに、めあてをもって、規範意識を高めさせ、よくできたときには具体的に称賛していく。 ・高学年の児童を中心に、きまりやマナーを守るように指導を徹底し、下学年の児童に良い影響を与えられるようにしていく。								
目指す児童の姿	A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上 ⇒保護者 80%以上 ⇒地域住民 80%以上	① 全職員が率先してあいさつするとともに、児童会を中心としたあいさつ運動を実施することで、元気なあいさつの意識化、習慣化を図る。 ② 高学年児童が下級生の模範となるよう指導の手立てを工夫し、児童同士のあいさつへの意識を高める。 ③ 「あいさつをする意味や大切さ」について、学級活動や授業などで継続的に指導する。また、学年だより等により家庭への啓発を図る。 ④ 家庭や地域学校園、地域協議会と連携して、あいさつ運動を推進する。	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>90.5%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>66.7%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>71.2%</td></tr><tr><td>地域住民の肯定的回答率</td><td>95.2%</td></tr></table> ・児童、地域住民の肯定的回答率は指標を上回っているが、教職員、保護者の肯定的回答率は指標を下回った。	児童の肯定的回答率	90.5%	教職員の肯定的回答率	66.7%	保護者の肯定的回答率	71.2%	地域住民の肯定的回答率	95.2%
	児童の肯定的回答率	90.5%									
	教職員の肯定的回答率	66.7%									
保護者の肯定的回答率	71.2%										
地域住民の肯定的回答率	95.2%										
A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上 ⇒保護者 80%以上	① 児童が主体的に活動したり、活躍したりできる場を数多く設定するとともに、認め励ます指導を心がけ、児童の自己有用感を高めていく。 ② 学校行事や各教科の授業、各種検定等において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。 ③ 道徳の授業において、目標をもって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、そうした実践に向けた意欲を高める。	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>88.2%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>75.8%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>69.7%</td></tr></table> ・児童の肯定的回答率は指標を上回ったが、教職員、保護者の肯定的回答率は指標を下回った。	児童の肯定的回答率	88.2%	教職員の肯定的回答率	75.8%	保護者の肯定的回答率	69.7%			
児童の肯定的回答率	88.2%										
教職員の肯定的回答率	75.8%										
保護者の肯定的回答率	69.7%										
A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上 ⇒保護者 80%以上	① 安全に行動できる資質や能力を育成するために、より具体的・実践的な取組をしていく。特に自転車の乗り方に関しては繰り返し指導する。指導に当たっては、市や警察などの関係機関等と連携し、安全に対する意識の向上を図る ② オープンスクール等での朝食摂取啓発ビデオ視聴また地域学校園で作成した「食育ファイル」を通して、食の大切さを啓発していく。 ③ 学級活動や家庭科の授業において、栄養教諭による食育指導の時間を設けるなど、直接的な指導を行う。 ④ 食育だよりを活用して食事のマナーや栄養素についての意識を高めるとともに、地域学校園で「お弁当の日」を	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>92.9%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>87.9%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>83.2%</td></tr></table> ・児童、教職員、保護者いずれにおいても肯定的回答率は指標を上回った。	児童の肯定的回答率	92.9%	教職員の肯定的回答率	87.9%	保護者の肯定的回答率	83.2%			
児童の肯定的回答率	92.9%										
教職員の肯定的回答率	87.9%										
保護者の肯定的回答率	83.2%										

目
指
す
児
童
の
姿

	同日開催したり、アンケートにより家庭の食への意識を把握したりしながら、食に対する意識向上を図る。		導していく。								
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児 童 80%以上 ⇒教職員 80%以上 ⇒保護者 80%以上	① 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自らのよさを自覚して夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲や、望ましい勤労観や職業観を、全教育活動を通して意図的・計画的に育む。 ・二分の一人入式を開こう（4年） ・探そう、自分（6年） ② 夢を実現したスポーツ選手等の逸話や道徳科での説話などを通して、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>88.2%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>75.8%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>69.7%</td></tr></table> ・児童の肯定的回答率は指標を上回ったが、教職員、保護者の肯定的回答率は指標を下回った。 【次年度の方針】 ・全教育活動において、夢や目標の実現に向けて取り組むことの大切を伝えと共に、学級の係活動・当番活動や委員会活動に責任をもって取り組ませ学級や学校に貢献しているという自己有用感を高めさせる。	児童の肯定的回答率	88.2%	教職員の肯定的回答率	75.8%	保護者の肯定的回答率	69.7%		
児童の肯定的回答率	88.2%										
教職員の肯定的回答率	75.8%										
保護者の肯定的回答率	69.7%										
A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① A L T と担任との T T で、効果的な外国語活動の展開を図る。 ② 外国語活動を通じて、言語や文化について体験に理解を深め、英語でのコミュニケーションに親しもうとする態度を育成する。 ③ 外国語活動に関する校内研修や授業を相互に見合う機会を充実して指導力の向上を図る。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>90.5%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>81.8%</td></tr></table> ・児童の肯定的回答率は、指標を上回ったが、教職員については下回った。 【次年度の方針】 ・児童は繰り返し指導することで、英語に対する抵抗感が減り、楽しんでコミュニケーションを図ろうとする態度は育ってきている。活動がマンネリ化している部分もあるので、さらに A L T との連携を深め、新たな活動を工夫していきたい。	児童の肯定的回答率	90.5%	教職員の肯定的回答率	81.8%				
児童の肯定的回答率	90.5%										
教職員の肯定的回答率	81.8%										
A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上	① 生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業や、市内や地域での校外学習等において、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導に努める。 ② 出前授業等を活用して宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深めるとともに、教師自身も宇都宮の良さを学ぶよう努める。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>82.5%</td></tr></table> ・児童の肯定的回答率は、指標を下回った。 【次年度の方針】 ・来年度から始まる「宇都宮学」を核として、宇都宮の良さを、折に触れ児童に伝えたり、出前授業を積極的に活用したりする。	児童の肯定的回答率	82.5%						
児童の肯定的回答率	82.5%										
A 10 児童は、I C T 機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、I C T 機器や図書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児 童 80%以上 ⇒教職員 80%以上	① 積極的に I C T 機器を活用する時間を設け、児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるようにする。 ② 各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。 ③ I C T 機器や図書資料を用いて課題を解決したり、まとめたりする喜びを味わわせる。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>86.7%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>97.0%</td></tr></table> ・児童、教職員共に肯定的回答率は、指標を大きく上回った。また、市の平均よりもいづれも 3.6 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・学校図書館教育の研究で、授業の中で積極的に図書資料を用いての調べ学習を取り入れた効果が現れた。パソコンも新しくなったので、それらも有効に活用していく。	児童の肯定的回答率	86.7%	教職員の肯定的回答率	97.0%				
児童の肯定的回答率	86.7%										
教職員の肯定的回答率	97.0%										
A 11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても思いやりの心をもっている。」 における肯定的回答 ⇒児 童 80%以上 ⇒教職員 80%以上 ⇒保護者 80%以上 ⇒地域住民 80%以上	① 体験活動と関連を図った道徳科の授業を実施し、高齢者を思いやる心や態度の育成を図る。 ② 生活科や総合的な学習の時間、各教科の授業等において、地域の方や高齢者と交流する機会を設け、感謝や相手を思いやる心を育む。 ・昔あそび（1年） ・運動会玉入れ（1・2年） ・陽南まつり（2年） ・高齢者疑似体験（4年） ・高齢者交流会（4年） ③ ボランティア感謝の会を実施し、登下校の見守り等で世話になっている	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>92.0%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>81.8%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>82.5%</td></tr><tr><td>地域住民の肯定的回答率</td><td>94.7%</td></tr></table> ・児童、教職員、保護者いづれにおいても肯定的回答率は指標を上回った。 【次年度の方針】 ・①②③の取組を引き続き継続して行うことで、高齢者に対する感謝や思いやりの心を育てていく。	児童の肯定的回答率	92.0%	教職員の肯定的回答率	81.8%	保護者の肯定的回答率	82.5%	地域住民の肯定的回答率	94.7%
児童の肯定的回答率	92.0%										
教職員の肯定的回答率	81.8%										
保護者の肯定的回答率	82.5%										
地域住民の肯定的回答率	94.7%										

		ことを振り返ることで感謝の気持ちを育てる。						
目指す児童の姿	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 における肯定的回答 ⇒児 童 80%以上 ⇒教職員 80%以上	① 社会科や総合的な学習の時間における環境教育やみやエコスクール等を通して、環境問題への関心を高め、児童一人一人の環境に対する関心や理解を深め、環境を大切にすることが取れるようにする。 ・わたしたちのくらしと環境（5年） ② 牛乳パックリサイクル、紙のリサイクルを各委員会活動ですすめる。 ③ 人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育（特に生命尊重）を計画的に実施する。 ④ 東日本大震災をはじめとした過去の災害の具体事例から学ぶ教材を工夫し、防災教育を充実する。 ・避難訓練（竜巻）	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>84.2%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>39.4%</td></tr></table> ・児童の肯定的回答率は指標を上回ったが、教職員の肯定的回答率は下回った。 【次年度の方針】 ・年度当初に教職員の指導観の統一を図り、環境問題への関心を高めるとともに、社会科や総合、道徳等において持続可能な社会の内容に関する授業を実践し、学んだことを実生活でも生かせるよう促す。	児童の肯定的回答率	84.2%	教職員の肯定的回答率	39.4%
	児童の肯定的回答率	84.2%						
	教職員の肯定的回答率	39.4%						
	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 個別の支援や配慮が必要な児童について全職員で共通理解を図り、かがやきルーム指導員や言語障害通級指導教室指導員等と連携し、全校体制で支援していく。 ② 個別の支援計画を立てて、個に応じた支援と、一人一人のニーズに応じた支援を行う。 ③ 特別支援学級においては、特別支援学級非常勤嘱託員と協同して一人一人により丁寧で細やかな指導を行う。 ④ SMCのコーディネートにより、SCが専門的観点から、本人や保護者に支援を行うとともに、担任へも効果的な助言ができるようにする。	B	【達成状況】 <table><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>100.0%</td></tr></table> ・教職員の肯定的回答率は指標を上回っている。個別の支援や配慮が必要な児童について全職員で共通理解を図り、ケース会議を開くなどして全校体制で支援してきたことが効果的だったと思われる。 【次年度の方針】 ・①②③④の取組を継続し、特別な支援を必要とする児童の実態に応じた適切な支援を学校・家庭・関係機関が連携して行っていく。	教職員の肯定的回答率	100.0%		
教職員の肯定的回答率	100.0%							
A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上	① 人権週間、「いじめゼロ・にっこり集会」等を通して、互いを思いやることの大切さを理解し自分たちの生活をよりよいものにしていこうという意欲を高める。 ② 教育相談やアンケート調査を通して、「いじめ」や「いじめにつながる行動」の早期発見に努めるとともに、いじめが疑われる事案が把握された場合は、いじめ防止対策委員会を開催し関係教職員が組織的に連携し、家庭の協力も得ながら解決していく。 ③ 「学校をよりよくするアンケート」を6月・10月・12月・2月に実施し、いじめを抑止するとともに把握した実態を懇談会や学年だより等で保護者に周知し家庭の理解を得ながら、児童にいじめが許されない行為であるという意識を定着させる。 ④ 学年だよりの「にっこり広場～いじめゼロの楽しい学校を目指して」というコーナーで教育活動の様子を発信する。 ⑤ いじめ防止に関する道徳の授業を全学級で行い、懇談会で説明する。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>96.5%</td></tr></table> ・児童の肯定的回答率は指標を上回った。 【次年度の方針】 ・①②③④⑤の取組を継続して行うことで、互いを思いやること心を育む。 ・教育相談等で、教師がいじめを許さないという姿勢を見せたり、児童が自分の味方になってくれるという安心感を与えたりする。	児童の肯定的回答率	96.5%			
児童の肯定的回答率	96.5%							
A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。 ② 教育相談、アンケート、Q U調査等の結果を活用し不適応傾向のある児童	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>95.3%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>85.7%</td></tr></table> ・児童、保護者の肯定的回答率は指標を上回った。児童が欠席した際には、教職員と保護者間の連絡を密に取ってきた結果であ	児童の肯定的回答率	95.3%	保護者の肯定的回答率	85.7%	
児童の肯定的回答率	95.3%							
保護者の肯定的回答率	85.7%							

目 指 す 児 童 の 姿		切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 における肯定的回答 ⇒児 童 ８５％以上 ⇒保護者 ８５％以上	の早期発見と不登校の兆候や傾向の児童に係る校内全体の情報共有を図る。 ③ いじめ・不登校の早期発見・早期対応・解決に向けて、欠席状況共有シートを活用したり、児童指導情報交換会・学年会・ブロック会で情報を交換したりする。また、学校の取組だけで改善することが困難な家庭環境が背景にあると思われる不登校については、関係機関（市教育センター・民生委員・主任児童委員・児童相談所・市役所子ども課）と連携をするとともに、各担当からも働きかけを行うようにして、改善を図る。 ④ 全クラス「きらりコーナー」、帰りの会での「今日のきらり」を設け、友達のよさを認め合えるようにする。		と考える。 【次年度の方針】 ・①②③④の取組を継続するとともに、不登校の兆候が見られる児童や保護者との連絡を早期に密に取っていくようにする。				
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 ８５％以上	③ 人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。 ② 外国人児童や外国人の保護者について、全校で共通理解を図り、必要な支援やニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ③ 児童が、互いの国籍や文化、個性の違い等を認め合い尊重しながら生活できるよう、日常的な指導に努める。	B	【達成状況】 <table><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>100.0%</td></tr></table> ・教職員の肯定的回答率は指標を 15 ポイント上回っている。外国人児童や外国人保護者及び家庭状況等について教職員の共通理解の下、日常の指導や校内研修を通して人権教育の推進を図ってきたことや、道徳で立場の違いを尊重する授業に取り組んできたことの成果と考える。 【次年度の方針】 ・引き続き、人権教育、道徳教育についての研修を深めるとともに、他国文化や人権を尊重する意識の高揚を図っていく。	教職員の肯定的回答率	100.0%			
	教職員の肯定的回答率	100.0%							
	A17 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、活気があり、明るく生き生きとした雰囲気である。」 における肯定的回答 ⇒児 童 ８５％以上 ⇒教職員 ８５％以上 ⇒保護者 ８５％以上	① 児童一人一人が所属感と安定感をもった居がいのある学級作りに向けて、Q-U検査やアンケート・日常の交友関係の観察により、児童の実態を把握し、問題があるときはすぐに対策を講じる。学年間の連携も図る。 ② 授業や学校生活の様々な場面を通して、教職員が児童のよさや努力を認め励ます指導を行う。 ③ 児童会活動において、児童の主体的な活動を重視するとともに、異学年交流を活発に行い、児童が活躍する場を広げる。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>89.3%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>97.0%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>87.0%</td></tr></table> ・日常指導の中で、各種アンケートや教育相談を通して児童の実態把握に努めたり、問題発生時には共通理解の下、早期対応を図り指導に当たったりしてきた。保護者をはじめ来校者に対しても進んで挨拶をし、明るい対応を心掛けた。 ・児童、保護者、教職員ともに肯定的回答率が、指標を上回った。児童の肯定的回答率も指標よりやや上回ってはいるが、不安や不満を抱えている児童が一定数存在することが考えられる。 【次年度の方針】 ・引き続き、児童一人一人の様子に目を配り、小さな変化も見逃さない姿勢を教師が保つとともに、問題発生時には、学校全体で連携を図り、早期発見・早期支援に努める。全体での情報交換も引き続き行い、連携して対応できるようにしていく。さらに、学校の取組を保護者に向けて発信していく。	児童の肯定的回答率	89.3%	教職員の肯定的回答率	97.0%	保護者の肯定的回答率
児童の肯定的回答率	89.3%								
教職員の肯定的回答率	97.0%								
保護者の肯定的回答率	87.0%								
A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」	① 十分な教材研究のもと、本時のめあてを明確にするとともに、児童の理解度に合わせた作業用紙やヒントカード・ヒントコーナー・教材教具を準備し分かる授業に努める。 ② 授業の中で児童の意見を取り上げ、認め励ますなどして生かすことで、自信をもって自分の考えを表現したり伝え合ったりすることができる児童の育	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>96.2%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>84.1%</td></tr></table> ・児童の肯定的回答率は指標を上回ったが、保護者の肯定的回答率は、指標をやや下回った。	児童の肯定的回答率	96.2%	保護者の肯定的回答率	84.1%		
児童の肯定的回答率	96.2%								
保護者の肯定的回答率	84.1%								

目 指 す 児 童 の 姿	における肯定的回答 ⇒児 童 ８５％以上 ⇒保護者 ８５％以上	成を図る。 ③ 学力向上担当との連携を図った習熟度別学習やコース別学習を行ったり、単元によって学習体制を替えたりするなど、学習形態や場の設定を工夫し、児童の理解が深められるようにする。 ④ 計画的・構造的な板書を工夫し、児童が課題の確認や共有、焦点化が図れるようにするとともに振り返りの場面で活用できるようにする。 ⑤ 「聞き方・話し方のきまり」の掲示し意識づけを図るとともに、それらを活用し、伝え合う力の育成を図る。 ⑥ 週１回、朝の学習に算数における数と計算の学習を系統的に行うパワーアップタイムを設け、基礎基本の定着を図る。	【次年度の方針】 ・ほとんどの児童は、肯定的な回答をしているので、今後も、今年度までの取組を継続し、一人一人が分かる授業を行っていく。 ・⑥のパワーアップタイムについては、実態に応じ、朝の学習の時間を弾力的に活用し、児童の基礎基本の定着を図る。						
	A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる教職員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 ８５％以上	① 学校の諸課題への対応や、学校行事の準備・運営等に、教職員が相互に助け合いながら組織的に取り組むよう努める。 ② 各々の教職員の得意分野や持ち味が生きる組織運営に努めるとともに、全教職員が互いに助け合い支え合う協働の意識をもって業務に取り組む	B	【達成状況】 <table><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>97.0%</td></tr></table> ・教職員の肯定的回答率は指標を 12 ポイント上回っている。学校課題の解決や学力向上、学校行事等に向けて学校がチームとして組織的に取り組んできた。 【次年度の方針】 ・引き続き、互いに助け合いながら組織的に業務に取り組んでいくとともに、それぞれの得意分野が生かされたり、協働意識が高まったりするような編成や運営を進めていく。	教職員の肯定的回答率	97.0%			
	教職員の肯定的回答率	97.0%							
	A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 ８５％以上	① 学校の働き方改革を念頭に職員一人一人が、勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。 ② 教職員の負担軽減に向け、学校の組織運営の改善や、各種行事等スリム化を図る。 ③ 学習情報システムやＩＣＴを効果的に活用し、業務を効率化を図る。	A	【達成状況】 <table><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>81.3%</td></tr></table> ・教職員の肯定的回答率は、指標を 3.7 ポイント下回っている。 ・教職員の負担軽減、行事のスリム化等を行い、効率化を考えた意識改革を図っているが、教職員の業務改善がなかなか進んでいないと思われる。 【次年度の方針】 ・引き続き効率化を考えた意識改革や行事のスリム化、ＩＣＴの活用等を進め、業務の改善・負担軽減に努めていく。	教職員の肯定的回答率	81.3%			
教職員の肯定的回答率	81.3%								
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 における肯定的回答 ⇒児 童 ８０％以上 ⇒教職員 ８０％以上 ⇒保護者 ８０％以上	① 小中一貫教育のカリキュラムを充実させる。（９年間を見通した年間指導計画の作成・見直し） ② 小中乗り入れ授業を実施し地域学校園の小中の交流を促進する。 ・陽南中学校の先生による６年生への出前授業 ③ 陽南小児童会と陽南中学生徒会が協力して「あいさつ運動」を実施する。 ④ 宮っ子チャレンジ（宮チャレ）の活動を通して、小中学生の交流を図る。	A	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>86.0%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>90.9%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>77.3%</td></tr></table> ・児童、教職員の肯定的回答率は目標の指標を上回っている。保護者の肯定的回答率は、指標を 2.7 ポイント下回った。 ・小中乗り入れ授業や小中合同のあいさつ運動、６年生の中学校訪問、宮チャレでの中学生受け入れ等を行ってきた。関係学年の保護者へは理解が図られているが、関係学年以外は周知が図られていないことが原因と考えられる。 【次年度の方針】 ・小中の乗り入れ授業やあいさつ運動において、小中で交流している意義などを担任が指導したり、小中一貫教育や地域学校園の活動内容を便りやホームページ等で積極的に発信したりしていく。	児童の肯定的回答率	86.0%	教職員の肯定的回答率	90.9%	保護者の肯定的回答率	77.3%
児童の肯定的回答率	86.0%								
教職員の肯定的回答率	90.9%								
保護者の肯定的回答率	77.3%								

A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒児 童 80%以上 ⇒教職員 80%以上 ⇒地域住民 80%以上	① 陽南小学校魅力ある学校づくり地域協議会（魅力協）を定期的に開催し、学校経営方針への保護者、地域住民の意見反映や、学校関係者評価の実施などを行う。 ② 校外での体験活動時の安全確保や、授業への支援などへの協力、参画を得て、学校支援ボランティアを有効に活用する。 ③ 学校の活動の様子を積極的に、学年だよりや学校HPで公開するようにする。	B 【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>89.3%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>地域住民の肯定的回答率</td><td>85.2%</td></tr></table> ・児童、教職員、保護者ともに肯定的回答率が、指標を上回っている。図書ボランティア、読み聞かせ、清掃ボランティア、ミシンボランティア、親学出前講座、防犯教室などを有効に活用し特色ある教育活動が展開できている。 【次年度の方針】 ・引き続き学校支援ボランティアを活用していくとともに、活動の目的や意義、協力団体を児童に正確に伝えたり、保護者や地域に発信したりしていく。	児童の肯定的回答率	89.3%	教職員の肯定的回答率	100.0%	地域住民の肯定的回答率	85.2%		
児童の肯定的回答率	89.3%									
教職員の肯定的回答率	100.0%									
地域住民の肯定的回答率	85.2%									
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒児 童 80%以上 ⇒教職員 80%以上 ⇒保護者 80%以上 ⇒地域住民 80%以上	① P T Aによる水曜日下校時の立哨・みまもり隊、地域の方々による青色パトロール隊等に協力を依頼するとともに、教職員が交代で下校パトロールを実施し、登下校時における児童の安全確保に努める。 ② 地域協議会の組織を有効活用し、地域コーディネーターを中心に、学校を支援するボランティアを募り、学校・家庭・地域との連携、協力を深めるとともに児童の教育・安全の充実を図る。 ③ 「人とのふれ合い活動」を積極的に推進し、地域の教育的資源（地区市民センター・独居老人・幼稚園・保育園）を活用して、コミュニケーション能力の育成や相手を思いやる心・助け合う心の育成に努める。	B 【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>89.3%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>85.2%</td></tr><tr><td>地域住民の肯定的回答率</td><td>100.0%</td></tr></table> ・P T Aによる下校時の立哨・見守り隊、地域の方々による青色パトロール隊などの協力をいただき、児童の安全確保に努めた。また、「まつぼっくり」「C B A」の読み聞かせや、「研究授業時の自習見守りボランティア」「ミシンボランティア」を地域協議会を通してお願いした。さらに、出前講座の実施や「昔遊び」等の地域の方との交流を行った。そのため、児童、教職員、保護者、地域ともに肯定的回答率が指標を上回っている。 【次年度の方針】 ・引き続き、学校・家庭・地域・企業との連携を図り、教育活動を充実させていく。	児童の肯定的回答率	89.3%	教職員の肯定的回答率	100.0%	保護者の肯定的回答率	85.2%	地域住民の肯定的回答率	100.0%
児童の肯定的回答率	89.3%									
教職員の肯定的回答率	100.0%									
保護者の肯定的回答率	85.2%									
地域住民の肯定的回答率	100.0%									
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 80%以上 ⇒保護者 80%以上	① 管理職による施設・設備の常時点検と、月1回のチェック項目に基づく全職員での安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ② 危機管理マニュアルを見直すとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ③ 熱中症対策予防対策、インフルエンザ蔓延予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。	B 【達成状況】 <table><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>88.7%</td></tr></table> ・教職員、保護者ともに肯定的回答率が指標を上回っている。「児童の安全が万人の安全につながる」の意識の下、月1回の安全点検を実施し、危険箇所は早期に修繕するなど、児童の安全に配慮している。危険箇所や修理箇所については、教職員や児童に周知し万全を図っている。 【次年度の方針】 ・引き続き衛生や自然災害も含め児童にとっての安全な環境に十分配慮していく。	教職員の肯定的回答率	100.0%	保護者の肯定的回答率	88.7%				
教職員の肯定的回答率	100.0%									
保護者の肯定的回答率	88.7%									
A25 学校は、学習に必要なI C T機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、I C T機器や図書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児 童 80%以上 ⇒教職員 80%以上 ⇒保護者 80%以上	① 児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的にI C T機器を活用する。 ② 各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。 ③ 読書の時間や読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。	B 【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>86.7%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>97.0%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>62.0%</td></tr></table> ・児童、教職員の肯定的回答率は、指標を上回ったが、保護者の肯定的回答率は大きく下回った。 【次年度の方針】 ・保護者に対し、学校図書館教育の取組について、分かりやすく発信していく。また、パソコン室の環境が整ったので、教職員が有効に活用したり、活用の様子を保護者に伝えたりしていく。	児童の肯定的回答率	86.7%	教職員の肯定的回答率	97.0%	保護者の肯定的回答率	62.0%		
児童の肯定的回答率	86.7%									
教職員の肯定的回答率	97.0%									
保護者の肯定的回答率	62.0%									

目指す児童の姿	B 1 児童は家庭学習の習慣が身に付いている。 学校アンケート 「児童は家庭学習の習慣が身に付いている」における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上 ⇒保護者 80%以上	① 低中高の実態に合わせて作成した「家庭学習のしおり」と「家庭学習ヒント集」を活用して常時指導し、家庭学習の定着を図る。また、課題の内容を工夫し、多様な学習への取組ができるよう支援する。 ② 自主学习ノートの展示コーナー等を設け、個々の頑張りを褒め励ますとともに、良さを広めていく。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>84.6%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>87.1%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>71.5%</td></tr></table> ・児童、教職員の肯定的回答率は指標を上回ったが、保護者は下回った。昨年度と同じぐらいの肯定的回答率である。 【次年度の方針】 - 今後も①②の取組を継続し、宿題にも取り組めない児童については、個別に声をかけをしていく。 - 自主学习のさせ方については、発達段階や学年の実態に応じ支援していく。	児童の肯定的回答率	84.6%	教職員の肯定的回答率	87.1%	保護者の肯定的回答率	71.5%
	児童の肯定的回答率	84.6%								
	教職員の肯定的回答率	87.1%								
保護者の肯定的回答率	71.5%									
B 2 児童は積極的に本とふれ合い、読書の楽しさ味わうとともに、豊かな心を培っている。 学校アンケート 「児童は、学校や家で積極的に読書に親しんでいる」における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上 ⇒保護者 80%以上	① 週2回朝の読書の時間を日課表に位置付け、図書館の開館も行う。 ② 多くの本と出会い、読書の楽しさを味わわせるために、月2回ボランティアによる読み聞かせを実施していく。 ③ 多読賞表彰や図書コーナーの充実（図書館だより、児童の読書の記録、おすすめの本の紹介などの掲示）により本に親しむ環境作りに努め、児童の読書意欲の向上を図る。 ④ 全教科の調べ学習に対応できるよう、担任と連携しながら必要とされる時期に必要な本の整備に努める。 ⑤ 読書の習慣化を促すため、「家読」を家庭に呼びかける。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>76.3%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>87.1%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>63.7%</td></tr></table> ・教職員の肯定的回答率は、指標を上回ったが、児童、保護者については、指標を下回った。 【次年度の方針】 「学校図書館教育」の研究で、学校では様々な工夫を取り入れたが、読書に興味をもてない児童に対して、さらに有効な活動を考えていきたい。 - 読書以外に児童の興味を引くもの（ゲームや携帯）などに時間を費やす児童が多いものと思われる。家庭での読書の時間の確保を呼びかけたい。	児童の肯定的回答率	76.3%	教職員の肯定的回答率	87.1%	保護者の肯定的回答率	63.7%	
児童の肯定的回答率	76.3%									
教職員の肯定的回答率	87.1%									
保護者の肯定的回答率	63.7%									
B 3 児童は、自分のよさに気づき自己肯定感をもって、生活している。 学校アンケート 「自分には自分なりのよいところがあると思う」における肯定的回答 ⇒児童 80%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、帰りの会やきりりコーナーで、児童が互いに認め合う場を設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。 ② 授業や学校行事、体験活動の振り返りを重視し、児童が発揮したよさや頑張りを自覚できるような自己評価、相互評価を工夫する。 ③ 見取ったよさを家庭に伝えるよう努め、学校と家庭が歩調を合わせながら自分に自信がもてる児童を育てる。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>84.2%</td></tr></table> ・児童の肯定的回答率は指標を上回った。 【次年度の方針】 ①②③の取組を継続して行うことで、児童一人一人が自分のよさに気づき、自己肯定感をもって生活できるようにする。	児童の肯定的回答率	84.2%					
児童の肯定的回答率	84.2%									

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・概ねの項目で目標の数値指標を達成することができたが、全市平均と比較すると低い項目も少なくないので、今後も教職員が一体となって教育活動に取り組んでいく。また、新たな評価項目である「宇都宮学」や「持続可能な社会」については、教職員自身が研修等を通して理解を深めていく必要がある。
- ・児童・保護者・教職員・地域の住民との間で、肯定的回答率に大きな違いが見られる項目があった。これは、学校の教育活動が十分に保護者や地域に伝わっていないためと考えられる。今後も本校の学校運営の状況、教育活動の状況、健康・体力、学習、本校の特色などの取組について「学校だより」や「学校ホームページ」等で積極的に発信し、保護者や地域の理解を深めていただくよう努める。また、地域や保護者からの声を学校運営に反映し、改善を図り、家庭・地域と連携した教育活動の充実に努める。
- ・今後は「規範意識の醸成」「時と場に応じたあいさつ」「学び合いの向上」「読書の量・機会の増加」を課題とし、家庭・学校・地域が協力して解決にあたることができるよう関係の強化を図る。

6 学校関係者評価

○時と場に応じた適切なあいさつや言葉遣いについては、学校・家庭・地域が互いに連携・協力して取り組んでいく必要がある。子どもたちは学校内ではよくあいさつをしているが、登校時や下校時の立哨など校外では、あいさつできる子とできない子の差がとても大きい。高学年や登校班の班長があいさつできると、続く下級生もあいさつするので、あいさつのできる高学年を育てていくことがポイントなのではないか。

自分からあいさつできる子を育てるためにも、「あいさつすると気持ちが良い」という意識の涵養やあいさつができる子をみながほめていくことなども大切だろう。

- ・ A 2 1, A 2 2, A 2 3 は, 児童と保護者の意識の差が気になるところ。学校の取組を保護者に積極的に発信していくと共に, 子どもが学校の様子やできごとを家庭で話す時間も増やしたいところだ。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

○今後も, 本校の学校運営の状況, 教育活動の状況, 健康・体力, 学習, 本校の特色や取組などについて積極的に発信しながら, 開かれた学校づくり・地域とともにある学校づくりに努める。今年度の取組を継続・発展させながら, 学校と保護者, 地域が協力・連携を図り, 地域に信頼される学校づくりを推進する。

◇次年度に向けての方向性

「心身ともに健康で創造性に富み, 心豊かで実践力のある児童の育成」の目標を継続し, 以下の学校像を目指して全職員が学校経営に参加しながら主体的に取り組んでいく。（★は特に重要課題として取り組む）

《確かな学力を育む学校》

★学び合いの向上

- ・教師の授業力の向上
- ・基本的学習習慣の定着
- ・家庭学習の習慣化

ペア, トリオ, グループなど多様な学び合いの場の設定 聞き手を意識した表現力の向上
だれもが楽しく, 分かる・できる授業（ユニバーサルデザイン）の研究・実践
「ようなん授業・生活のきまり」の徹底
家庭学習のしおりを活用した家庭との連携強化

《豊かな心を育む学校》

★規範意識の醸成

教職員の統一步調のもと「ようなん授業・生活のきまり」の徹底
道徳の時間を核としたきまりやマナーを守る意義の理解

★時と場に応じたあいさつ

- ・言葉づかいの定着

家庭・地域と連携したあいさつ運動の推進, 教師の率先垂範

★読書習慣の定着

学級活動及び道徳教育の充実, 言語環境の充実

読書指導の充実（読書週間・読書集会）, 市図書館と連携した多様な図書の準備
読み聞かせの継続（ボランティア・教師）, 家庭の協力を得た家読の推進

○人権意識の向上

人権週間・いじめゼロ集会の工夫, 教育相談の充実, 道徳教育の充実

教職員によるいじめの早期発見・迅速な組織的対応

「きらりコーナー」等を活用した自己肯定感・自己有用感の向上

《健康な身体を育み安全な学校》

・運動習慣の定着

運動意欲の向上を図る工夫（業間・休み時間の運動促進, チャレンジ種目の設定, 児童主体の運動イベントの企画・実践）

・好ましい食習慣の定着

食育指導の推進及び家庭との連携（給食だより・食育ファイル, お弁当の日振り返りカードの活用）, 栄養教諭による個別面談の充実

・安全に行動できる能力育成

警察や消防署, 学校薬剤師と連携した授業の充実（避難訓練, 交通安全教室, 防犯教室, 薬物乱用防止教室, 喫煙防止教育, 自転車免許講習, SNSやスマホ・携帯電話についての講座など）